



株式会社ライコム・コーポレーション

代表取締役会長 田代正博氏
代表取締役社長 田代知也氏

こだわりの洗浄システムをウリにする

福祉機器のレンタル企業



代表取締役社長 田代知也氏

「うちのレンタル料金は他より高いですが、それだけの理由があります」——この一言が、仲介者を経て、末端の利用者に理解されるまでの努力は、どれほどのものだったのだろうか。しかし、分かってもらえれば、今度は「プラスの口コミ」が始まる。福祉機器のレンタルを主業務とするライコム・コーポレーションの話だ。

最新鋭工場を造る一方でソフトへ

取材・構成 ● 西原勝洋

経済評論家

まことに個人的な事情があり、福祉「業界」の話をよく聞く。その総括的な感想を言えば「よくもまあ、そんな綺麗事だけを言っていて、恥ずかしくないのかね」といった辺りだろうか。「このビジネスの話聞いた時、『エッ、それなら未収金は1割以下ですか』と驚きましたよ。『よし、そこに参入しよう』と、今から思えば本当に安直な気持ちで決意したものです」と語るのは、ライコム・コーポレーションの創業者であり、現代表取締役会長の田代正博氏だ。

つまり「楽に儲かりそうと思ったから参入しました」と言うのだ。こんな率直な動機の吐露を、福祉



代表取締役会長 田代正博氏

にもあった。が、それは「販売会議」ではなく「販売回収会議」と呼ばれていた（きつと、今も）。

レンタル先には、そうは困らない。が調子よく建設機械を借りていった業者が、いつまで経ってもレンタル料を払わないことが、なかば当たり前のような業界だ。したがって販売よりも回収が重要だった。不払いに泣かされ続けた。支払わない業者との間では、乱暴な言葉が飛び交う。そんな日常を送っていた

時、介護保険制度の発足、それに関連して成立する「業界」の情報を知った。

「利用者は1割負担で9割は国家補助」ということは、どう悪くても未回収率は1割以下ということですか」

未収金に泣かされ続けてきた「雇われ社長」としては「夢のような商売」に思えた。

「よし、脱サラして福祉業界に参入」の決意は瞬時にして固まった。

介護保険制度の発足が2000年4月だったのに、ライコム・コーポレーションの発足は同年6月、実際の営業

開始が同10月までずれ込んだのは、建設機械レンタル会社の社長任期が6月までであったためだ。責任上、4月前には辞められなかった。

建機レンタルの経験を活かして

福祉関連機器のレンタル会社なら、高齢者がよく通る商店街に、車いすなどが飾られた美しい店舗——そう勝手に想像していたら、全然違った。産廃運搬用のトラックがひっきりなしに通る道路に面している。ショップではなく工場の雰囲気だった。

実際のところ、その1階は工場だった。レンタル機器の「洗浄・除菌・脱臭」のための完璧なシステムと、保管庫だ。

レンタルから戻った機器は一部を除き、ここで高圧水力により最初の洗浄をされる。介護用ベッドのマットの場合なら、次に高性能洗濯装置でアルカリ性水、ついで酸性水で洗浄する。アルカリ性水は酸性水の前処理として使用し、酸性水には除菌脱臭効果がある。

それを高温乾燥機に入れる。100度で約120分。これで分厚いマットの深部に含まれ、通常の乾燥機では残ってしまう水分までなくす。

まだ終わらない。次はオゾン発生

「業界」の責任ある立場の人から聞いたことがない。

みんな、綺麗事を言う。純金ブレスレットを嵌めた手を誇示しつつ、「福祉こそ私の天職と心得て…」とか言っていた社会福祉法人の理事長が、インタビューの数日後、背任横領の容疑で、お縄になったこともあった。

田代氏は、それまで大手商社の優秀な営業マンだった。その商社が都道府

県ごとに建設機械のレンタル会社をつくった。東京を統括するレンタル会社の社長に送りこまれたのが田代氏だった。当時38歳。異例の抜擢だった。

企業に定例の「販売会議」があるのは当たり前だ。建設機械のレンタル会社

スペースに3時間。

どの装置も汎用機ではないから、驚くほど高価になる。

この洗浄過程の特徴は、完全な「一方通行」になっていることだ。完全に「洗浄・除菌・脱臭」された機材しか保存庫に入れない。

車いすも、もちろん同じだ。車いすは

JISの安全規定があるが、「JIS安全規定」に基づいた車いす安全整備士実技講師がライコム・コーポレーションに在職している。その講師と、車いす安全整備士の有資格者が車いすを点検して、「一方通行」の終点である保存庫に送る。そして注文があれば、即日届ける。

「急に退院することになったので、すぐに介護用ベッドと車いすがほしい」といった注文にも難なく応じられるわけだ。

これが、ライコム・コーポレーション

ンが最大の「ウリ」とするレンタル機器の洗浄と即日配達システムだ。

福祉機器のレンタルサービスには、



洋式トイレフレーム



電動車いすスキップ

大手企業が参入している。しかし、田代会長は「これだけの洗浄システムを備えている会社は少ないでしょう」と胸を張る。

実際のところ、

福祉機器のレンタル業界で、いちおうの洗浄システムを備えているのは1割程度と言われる。注文を受けても在庫はなく、大手レンタル会社からレンタルしてきた機器を利用者に

回している業者も少なくないのだ。

大手のように、全国展開するよう資本力はない。いや、全国展開するところが、利用者にとって本当に良いのかどうかも疑問は多い。洗浄のための完璧なシステムは、窓口の数とはぜんぜん違う。全国展開する大手とて、広範な地域ごとにしか作れないだろうから。

「少なくとも、この地域では、大手に絶対に負けない高品位のサービスを守れます」という理由だ。そして他の地域のケアマネジャーまで「あそこのレンタル料は高いですが」と言いつつ、利用者に薦めてくれる理由でもある。

ケアマネジャーが「単価の安さ」しか求めなかった時代とは徐々に変わりがつつある。

そして「あそこは高いが」といった話はケアマネジャーからケアマネジャーへと伝わっていく。それで江東区東砂の一角が地盤なのに、今では千葉県や埼玉県からもレンタルの注文が届く。

会長が言う。

「こういう方式で行こうと思いついたのも、私が建設機械のレンタルの仕事をしてきたからです。建設機械のレンタルでは、整備ヤードがある会社が絶対に強いですからね」

クレーン車、ブルドーザーといった建設機械は、泥まみれで返却される。簡単な洗浄作業をして、次の

レンタルに回すのが、業界の常識だ。

しかし「良き差別化」をしなくては、埋もれる。そう思ったから、戻ってきた建設機械は完璧に洗浄し、全部品を点検して、新品同様の状態にして次のレンタル先に出した。

利用者は見えない部品のことまでは分からない。だから利用者からすれば、新品同様のレンタル機械が届いて



福祉用具消毒センター



マット全自動丸洗い洗濯機

も「当然のこと」としか思われぬ。それでも、全部品を点検し、必要なら取り換える。同業者から「バカな奴」と思われても、ユーザーは必ず分かってくれる——この「日本人的な感直さ」

を、福祉機器レンタル業界に持ち込んだ。つまり、建設機械の整備ヤード＝福祉用機器の洗浄システムだ。それがいまや地元はもちろん、近隣の地域で認められつつあるのだ。

関連分野に幅広く展開、独自の車いすも

ライコム・コーポレーションは、車いす、介護用ベッドのレンタルから始めたが、会社創立7年目からは居宅支援事業、さらに訪問介護事業、そしてスペースを設けて通所のデイサービスを展開している。住宅のバリアフリー改造も請け負うし、水素水サーバーの販売まで行っている。

デイサービス、訪問介護は競合が厳しい。だから利益率も薄い。

しかし、福祉機器のレンタルだけではなく、関連分野に幅広く関与すれば、介護者、利用者の要



車いす／洗浄・消毒・殺菌作業

望に接することができる。介護者と利用者の利便性に合わせた車いす8種をOEM発注しているのも、その1つの成果だ。「楽に儲かると思ったから」といった当初動機とは違った「純福祉志向」がここにある。後継者は既に決まっている。次男の知也氏で、大学を出ると、そのまま父親が創業した会社に入った。とはいえ、その会社はまだヨチヨチ歩きの状態だった。「よそに修行に出してからが良いか

とも思ったのですが、この際、新卒第一期採用として育てるのが良いだろうと判断しました」と会長。

「ゼロから始めることに魅力を感じたから」と知也氏。

正博氏は2017年6月には会長になり、知也氏を社長にした。

「私が建設機械レンタル会社の社長になったのも、この年齢だったからね」と正博氏は語った。



ライコム・コーポレーションのライは、リラクゼーション、アメニティ、ユア・

セルフの頭文字であり、そのロゴマークは人を結びつける職務を示している。(にしはら かつひろ)

株式会社ライコム・コーポレーション

- 代表取締役会長 田代 正博
- 代表取締役社長 田代 知也
- 設立 平成12年6月
- 資本金 2千万円
- 従業員 102名
- 売上高 約10億円
- 事業内容 福祉用具のレンタル・販売、住宅改修、居宅介護支援、訪問介護事業、デイサービス事業、環境事業など

■ 本社 東京都江東区東砂5-14-19
 ■ 電話 03-3699-6751(代)
 ■ <https://www.raycom.co.jp>

東京都民銀行 城東支店会員